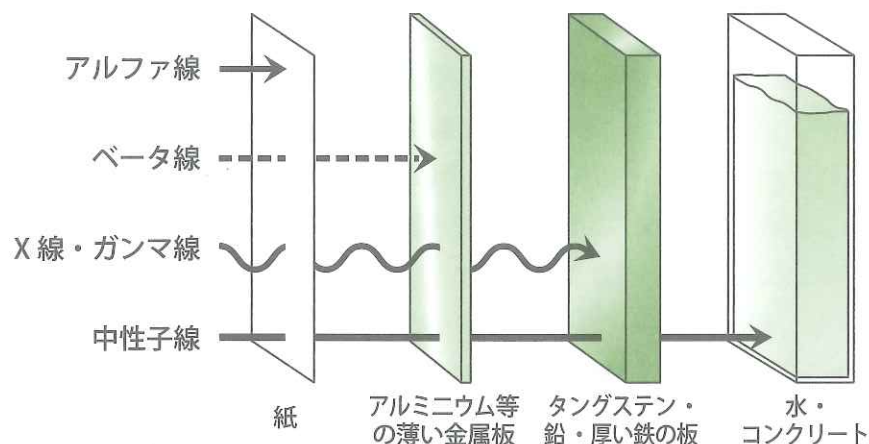


被ばくとは、体に放射線を浴びること

放射線には、ヘリウム原子核のアルファ線、電子のベータ線、光に近いエネルギーの波のガンマ線などがあります(図2参照)。私たちが日頃接するX線も放射線で、ガンマ線に似たエネルギーの波です。レントゲン検査でX線を瞬間的に受けます。このように放射線を浴びることを一般に「被ばく」と言います。

図2：放射線の種類と透過力



しかし今問題になっているのは、医療用のX線の被ばくとは違います。マスコミ等で何マイクロシーベルトと放射線量が表示されていますが、福島第一原発内で発生した核分裂生成物質である放射性物質が、原発から漏れ出し、周辺地域や海水に散らばっているということです。この飛散した放射性物質からは、いろいろな放射線が出ています。飛散は福島原発から遠く離れた土地にも及び、そして飲料水や牛の原乳、野菜や魚介類からも放射線が検出されています。このため原発周辺や遠隔地の地域住民も、持続的に被ばくしえるということで、そのことが不安や恐怖となって、大きな問題になっています。

この被ばくの仕方には大きく二つあります。外部被ばくと内部被ばくです。医療用のX線は外部被ばくです。校庭に落下・飛散している放射性物質から受ける放射線も外部被ばくです。一方空気中に飛散している放射性物質を吸い込んだり、落下して頭や衣服に付着した放射性物質を口から取り込んだりしたものから受ける放射線は内部被ばくです。また放射性物質が混入した水や牛乳、あるいは放射線が検出される農作物や魚介類などを食べて受ける放射線も内部被ばくとなります。